

# とっとり・グローバルウォッチ

とっとり国際ビジネスセンター情報誌

2013年1月9日

VOL. 74

## 初！鳥取県経済訪尼団を派遣 チャイナプラスワンとしてのインドネシア

### ■インドネシア入国

インドネシア語で「TERIMA KASIH」と書いて、読みはローマ字どおり「テリマカシ」、意味は「ありがとう」。同様にこの看板「TAKSI」は「タクシー」、なんとなく簡単そうで楽しい。

さきほど、訪問団がジャカルタ（スカルノハッタ空港）に到着し、今バスで市内のホテルに向かっているところである。12月というのに半袖で心地よい暑さ、人々の屈託のない笑顔、街にあふれる日本車、なんとなくとても親しみが湧いてくる国だ。

さて、このたびはチャイナプラスワンを狙い、鳥取県経済界としてアセアンの中でも特に関心のある国のひとつであるインドネシアへ県内製造企業さん等計25名の団で日系進出企業等を訪問することとなった。

インドネシアは世界第4位の人口を擁する親日国で、内需が高く経済的に安定成長されてきており、同国との技術交流や共同生産、部品輸出入等取引の可能性を探ることを目的としている。

### ■商談会開催、企業訪問など

さあ、今日12月5日（水）から団の公式行事が始まる。交通渋滞が激しいと聞いているジャカルタで少し欲張り気味の日程、少々不安を抱えての出発である。

まず、政府工業省。シャリフ・ヒダヤ高度技術産業局補佐官への表敬訪問を無事に終え、滑り出し好調だ。「日本とは経済的に緊密で良好な状態にあり今後の更なる投資を期待する。労働争議、工業団地不足の問題は並行して解決していく」とのこと。

次にジャカルタ北部で開催の総合工作機械見本市「MANUFACTURING INDONESIA」（39カ国、2,400社）を視察。日本からもジェトロのジャパンパビリオンに20社が出演されていました。関係者によると「一番の狙いは地元4輪メーカーがその現地調達



工業省訪問（12月5日）

に少々問題がある部品について、日本からの売り込み」とのこと。

続いてこの日午後からは団の宿泊ホテルで初の「鳥取県企業個別商談会inジャカルタ」を開催した。団側参加企業5社、現地企業10社、商談時間に制約もあり今後持ち帰り継続検討等という結果だったが、参加企業さんは概ね「インドネシア側の各業界事情が良く理解でき大変有意義であった」という感想だった。

12月6日（木）、7日（金）はジャカルタの東側である西ジャワ州にある工業団地等の訪問だ。工業省のシャリフ補佐官さんが「インドネシアで一番エンジョイし、またパートナーとして適しているのは日本で、300社以上が進出済み」とおっしゃっていた。このたびはそのうちの数社を訪問しただけだが確かにそんな感じだった。

これらの企業さんからお話の中で印象的であったことは、「インドネシア社員の育成、幹部登用が企業発展につながる。特に女性が勤勉。最低賃金が毎年激しく上昇。部品はできるだけアセアン内で調達」ということだった。

### 目次

初！鳥取県経済訪尼団を派遣	P 1 P 2
現地発！台湾月刊レポート 67	P 3 P 4
最新の上海～現地レポート～58	P 5 P 6
アンニョンハセヨ KOREAレポート 8	P 7
「食品輸出商談会in山陰」のご案内	P 8
ロシアセミナーのご案内	P 9

<次頁に続く>

## ■今後の方向

鳥取県産業振興機構として、特にものづくり系企業さんの海外展開を支援していく本事業の中で昨年度（2012年2月）はタイに、そして今年度はインドネシアに経済団を派遣したところである。今後、本県にとってアセアンは更に大切なパートナーになってくるであろうし、来年度はその中心地であるタイのバンコクに経済活動の拠点を設置することを検討している。

インドネシアについては、今一番の課題は交通インフラの早急な整備だと思われる。今年10月には日本とインドネシア政府間で2020年までにジャカルタで総事業費3兆4千億円規模のインフラ開発計画を進めることで合意している。鳥取県経済界としても、このあたりをも切り口にインドネシア市場への更なる取り組みを検討していくことが必要ではないだろうか、そんな思いのしたインドネシアの旅だった。

### <団参加者>

- ・当機構金田代表理事理事長を団長に、産学金官からなる総勢25名。
- ・うち製造企業等12社（電機機械製造、食品製造、縫製加工、建設、運輸等）

### <インドネシア共和国の概要>

- ・人口約2億4千万人（世界第4位）、大半がマレー系、人口ボーナスが大。
- ・国土面積約192万平方キロ（日本の5倍）。
- ・エネルギー資源（石油、ガス）が豊富。
- ・インドネシアから見て日本は輸出1位、輸入3位。日本からは4輪、2輪メーカーを中心に製造業の投資が旺盛。



鳥取県企業個別商談会開催（12月5日）



ジャカルタ東部の工業団地において電機機械企業訪問（12月7日）

## 《インドネシア訪問日程》

日にち	主な活動	宿泊
12/4（火）	関空→ジャカルタ	ジャカルタ
12/5（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インドネシア共和国政府工業省高度技術産業局表敬訪問</li> <li>・Manufacturing Indonesia視察（ジャカルタで開催の総合工作機械展）</li> <li>・鳥取県企業個別商談会開催（鍛造、建築金物、縫製加工、食品、運輸）</li> </ul>	同上
12/6（木）	・ジャカルタ東部の工業団地等で電機機械、食品製造企業等訪問	同上
12/7（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、ジャカルタ東部の工業団地等で電機機械製造企業等訪問</li> <li>・日本・インドネシア経済協力事業協会訪問（日本への技術研修生派遣研修機関）</li> </ul> 夜、ジャカルタ発→12/8（土）朝、関空着	機内泊

# 現地発！台湾月刊レポート 67

## 台湾金門島の歴史と吉本興業の大規模SC出店について

台湾金門島の歴史を紐解いてみる。台湾本島防衛のための複雑な歴史を持った金門島。今、観光としての開発が始まった。さらに今年オープンする大規模SC（ショッピングセンター）に吉本興業が出店する。今後の金門を展望する。

### ■日本と金門島の歴史

日本人軍神「根本中将」をご存知だろうか。終戦にも関わらず連軍と蒙古で戦い、日本の帰国民を助けた根本中将は、昭和24年、台湾に密入国した。目的は、中国共産党に対して敗戦を続けていた蒋介石率いる国民党軍を助けるためである。根本中将は、台湾金門島に上陸し、中国共産党三万の軍隊に対し国民党軍の戦略参謀として、たった一万人の軍隊で撃退した。金門島の民間人を犠牲にすることなく、中国共産党を敗走させた根本中将のことを島の人達は、軍神と呼ぶようになったのである。しかしこのことは、封印された。国民党軍が共産党軍を撃退させたとして歴史が捏造され日本人の存在が一切抹殺されたのだ。そして軍神の名誉回復がなされたのは、2009年に開催された古寧頭戦役戦没者慰霊祭。歴史的に見て、国民党が中国共産党を押さえ現在の台湾を死守できたのは、この金門島の戦いで勝ったからだとも言われている。詳細なことは門田隆将氏の本をご参照のこと。その後、金門島は、防共の最前線軍事基地としての歴史が始まった。1958年には砲弾戦となり多数の死者も出たが、防共にも成功している。特殊部隊として金門に駐留していた友人の話だが、2000mほど離れた金門島から大陸側の廈門市へ泳ぎ上陸し、街で買い物をしたとか、殺害した中国人の耳を切り落とし持ち帰り懸賞金をもらったとか、その後も緊張した状態が続いていたそうである。



金門県

左の赤印が金門島の位置

戒厳令が解除されたのは、1992年。その後、観光客も立ち入れるようになった。そして中国大陆との窓口として三通政策が行われるようになった。三通とは中華人民共和国(中国)と中華民国(台湾)の「通商」・「通航」・「通郵」を示す言葉である。現在、台湾本島から金門島への交通は、航空機により一時間少し。また島であるため、船による交通も活発である。中国大陆とは、定期船も開通しており、秘密のベールに包まれた軍事基地から、観光に特化した島として、台湾政府とともに金門県政府が活潑な開発政策を行なっている。さて、このような背景を持つ金門島へ昨年11月に行ってきた。金門島の名物といえば、軍事基地跡と高粱酒、そして砲弾包丁である。結論から言うと印象は「素朴なワンダーランド」。軍事基地跡は、本当に素晴らしい。この島を要塞化した人間の力を感じる。山に掘った砲撃基地。地下を掘った水軍基地。一見に値するのでぜひ訪問して欲しい。そして金門での飲み会といえば、乾杯から58度の高粱酒で始まり、誰かがぶっ倒れるまで乾杯が続く。結構旨い酒なのだが、飲み過ぎると意識がなくなるか、腰が抜ける恐ろしい酒でもある。街中もボトルのオブジェクトで飾られている。ただし残念なことは「抗日高粱酒」も売っていること。砲弾包丁とは、大陸から金門島に打ち込まれた砲弾をもとに、刃物にして売っている店である。砲弾を切り取り、包丁にして売っているのだ。私も一本購入したが、砲弾の鉄は、密度が高い良い鉄だそうで切れ味が良い。



左上：海軍の地下秘密基地、海に通じている。

右上：抗日の高粱酒。日本円で約3,600円。

左下：この砲弾から包丁等を作り出す。

右下：「風獅爺」これは金門の守り神。島内のどこにでもある。

<次頁に続く>

この「風獅爺」を名前に持つ巨大施設が金門空港近くに建設中である。この施設には日本の吉本興業が関与している。そのプレスリリースを抜粋する。

「アジア最大の日本をテーマにした台湾・金門島のショッピングセンターにて吉本興業が、47都道府県の物産展および日本企業へのテナントリーシング業務を展開。」吉本興業株式会社は、台湾の大手デベロッパーである台湾土地開発股份有限公司と提携し、台湾・金門県金門島に2013年7月にオープンする「風獅爺（フーシーイエ）プラザ・南館」において、日本47都道府県の名産品、特産品を集めた物産展の企画立案・運営、また日本企業へのテナントリーシングを行う運びとなりました。「風獅爺プラザ」は、台湾土地開発股份有限公司が、台湾・金門県政府の政策「国際観光島」「免税ショッピング島」目標を受け、台湾・中国両岸の交流を目的に、金門県政府より認可を受け始動した台湾最大のプロジェクト「兩岸自由貿易・取引センター」の第1期計画で、台湾・日本・韓国をテーマにした施設、グルメ・アミューズメント施設、インターナショナルブランド店舗を展開します。総敷地面積約24万㎡、事業費100億台湾ドルを超える大規模な商業開発となります。同プロジェクトは、金門尚義空港から約200mに位置する利便性、台湾政府の「離島建設条例」による免税特例を生かし、中華人民共和国福建省廈門市を中心とした約5000万人の海峡西岸経済圏をマーケットとして見込んでいます。弊社は、日本をテーマにしたショッピングセンターとしては、アジア最大の「風獅爺プラザ南館」に、日本47都道府県の名産品・特産物を常設した物産展、また、日本企業へのテナントリーシングを展開していきます。日本各地の人・モノ・情報の発信基地として実績をあげたノウハウを生かし、台湾・中国の消費者に日本の魅力・ブランドを伝えていきます。以上。

## ■大陸からの観光客に期待

金門島には、大陸からの観光客があふれていた。また、国内空港にもかかわらず空港内に免税店があつて驚いた。購買意欲も大変に高かった。台湾本島からの航空機は、満席。最近のニュースでは、意外にも大陸からよりも台湾からの観光客が来られない状況が続いているとのこと。金門県政府は、チャーター便に補助金を出す施策を打ち出した。金門のツアーガイドに確認したところ、以前は日本語を学んでいたが、今は北京語と台湾語を学ぶガイドばかりになったとか。ちなみに金門人の共通語は福建語。大陸からの観光誘致に大きな期待をしていると言っていた。この施設については、まだ実感がわからないが、県がバックアップしているため期待感はあるとのこと。

吉本興業は、面白い場所に目をつけたと思う。私の意見としては、大陸からの観光客が来た場合は、期待できるであろう。しかし台湾人観光客が来た場合は、魅力を感じないと思う。例えば、高雄に開店した北海道専門店は、最初の品ぞろえが素晴らしかったがジリ貧になった。同様にわざわざ金門まで行って日本商品を手に入れる購入モチベーションはわからない。台北、台中や日本に行けば済む話。また、免税であろうが、日本から金門までの物流は複雑でありコストがかかる。オープン当初は集客が期待できよう。最初に宣伝投資を兼ねるのであれば、面白い。しかし長期的には、厳しいと予測する。提示された出店条件を見て考慮すれば良いのではないだろうか。日本人軍神が守った金門島。この因縁の島で、日本商品が復活できれば、歴史は面白い。

《吉本興業のプレスリリース》

<http://yoshimotonews.laff.jp/news/2012/11/2013wind-lion-p-2174.html>



「風獅爺プラザ」完成予想図  
(吉本興業のプレスリリースより)



筆者撮影。本邦初公開。空港上空より。

# 最新上海 ～現地レポート～ 58

## 日本ブランドの小売市場 ②上海高島屋オープン

### ■上海高島屋がついにオープン

昨年12月19日、上海高島屋がオープンを迎えた。とはいえ、プレオープンではあるが。ちなみに、ここにテナント入居している日系化粧品メーカーの知人によると、今年春頃のグランドオープンと見られているようだ。上海高島屋はシンガポールと台北に続く3店舗目の海外出店となる。上海にある日本食品を販売している百貨店といえば、市内東部である浦東エリアにある第一ヤオハン百貨、市内中心部の久光百貨と梅龍鎮伊勢丹がある。上海の小売市場は百花繚乱であるが、上海高島屋が出店した市内西部の虹橋エリアは日系百貨店だけでなく、百貨店自体が比較的少なく、マンションが建ち並ぶエリアで、オフィス街でもある。今回は、プレオープンを迎えた上海高島屋について、周辺の様子や地下食品売り場をレポートする。

### ■店舗情報

上海高島屋は高島屋グループの独資子会社で、シンガポール高島屋が50%、株式会社高島屋が25%、東神開発株式会社が25%を出資している。

住所：上海市長寧区虹橋路1438号  
(地下鉄10号線「伊犁路」すぐ)

電話：+86-21-2223-2688

売り場規模：地下1階、地上7階、建築面積6万平米

HP：<http://www.takashimaya.com.cn/>

### ■立地と周辺の様子

#### ①地下鉄に連結、2020年には地下鉄15号線開通予定

地下鉄10号線「伊犁路」駅を下りると、目の前には上海高島屋が見える。地下鉄10号線は、上海の「老街」と呼ばれる古い町並みが残るエリアやフランス租界エリア、などの観光地を結ぶラインとなっている。オフィスエリアを結ぶ2号線に連結している久光百貨や梅龍鎮伊勢丹と比べると、現時点ではオフィスワーカーによるお昼のランチや夕方のお買い物を見かけるのも少ないと見受けられる。ちなみに、地下鉄を出てすぐの出入り口は、まだ工事中で、正面玄関はこの反対側の住宅街に面した通りにある。

#### ②マンション街とオフィス街の中央に位置

上海高島屋の南側には高層マンションが建ち並んでおり、日本人を含めた外国人が多く居住している。また、北側は虹橋経済開発区のオフィス街で、日本総領事館や自治体及び日系企業が多く入居する国際貿易センタービルがある。ただ、上海高島屋からオフィス街の間には、上海を東西に貫く幹線高架道路があり、徒歩10分程度ではあるが、心理的な距離感を感じる。これに配慮してか、一日5本だけではあるが上海高島屋からオフィス街までの送迎バスを無料運行している。



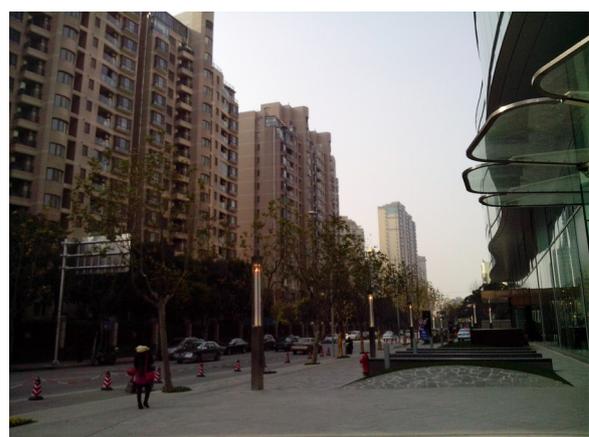
最寄りの伊犁路駅



地下鉄出ですぐの出入り口



正面玄関の様子



正面玄関向かいの住宅街

<次頁に続く>

## ■地下食品売り場

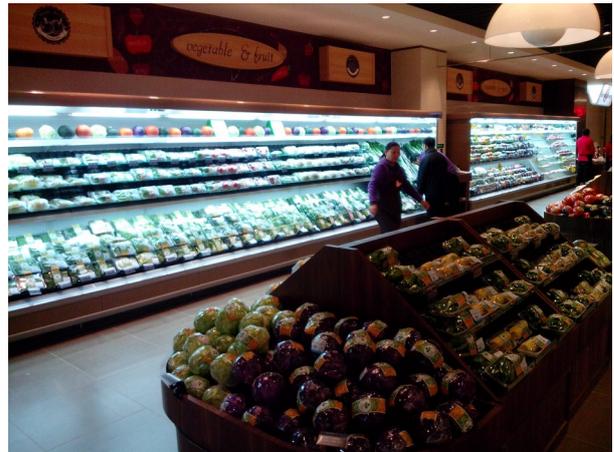
他の日系百貨店にあるスーパーと同様に、有機野菜や高級輸入果物のほか、鮮魚やお寿司が販売されている。目新しく感じたのは、スーパーの中央部には、「Cooking Station」と書かれた調理コーナーが設置されていたこと。筆者が訪れた際には、カレーの実演調理と試食提供が行われていた。中国の方にとって馴染みのない食品を販売する場合、調理の仕方や食べ方をPRしながら販促を行うのに適している。

## ■今後への期待

昨年秋ごろからの尖閣諸島問題に端を発する日中関係の悪化を懸念してか、まだプレオープンの段階であるためか、オープン告知に関するメディアへの露出やPR活

動はなく、上海高島屋周辺でも広告や案内表示はほとんど見られなかった。館内に入ってみると、地下1階の食品売り場にはそここの人が集まっていたが、スーパーやその他の階のには、まだ人がまばらな様子。グランドオープンを迎える際には、大規模な広告やセールがあると思われる、現在は試運転営業といったところかもしれない。

多くの日本人や日系企業があつまると虹橋エリアではあるものの、このエリアでの日系百貨店進出は上海高島屋が初となり、今後の集客に期待している。浦東（市内東部）エリアの第一ヤオハン百貨、市内中心部の久光百貨と梅龍鎮伊勢丹に加えて、上海高島屋が虹橋（市内西部）エリアの消費の中心となっていくのだろうか。今後の動向に注目していきたい。



左上：地下1階のスーパー  
 右上：青果売り場  
 左中央：漬物売り場  
 右中央：鮮魚売り場  
 左下：Cooking Station

# アンニョンハセヨ KOREAレポート 8

## 韓国はビジネスホテルのブーム

韓国を訪問する外国人観光客数の急増により韓国ではビジネスホテルが急増している。日本式ビジネスホテルシステムも韓国に進出して成果を出している。

### ■ビジネスホテルブーム

日本では既に軌道に乗ったビジネスホテル産業が外国人観光客の急増により韓国で発展し始めている。ソウルの中心地で高級ホテルを運営しているロッテやSHILLAホテル等がビジネスホテル事業に参加し、日本のホテルチェーンも韓国市場に進出し始めた。

世界的な韓流烈風等により昨年韓国を訪問した外国人観光客の数は初の1000万名を超えた。10年前に比べ2倍増である。しかし、外国人観光客の増加の妨げになることもある。それは、観光客を収容する宿泊施設である。韓国には日本と異なり低廉な中低価のホテルが足りないのが実情である。

ソウル市によると、2015年の宿泊需要は7万3231室に至ると予想されるが、現在の宿泊施設は2万6507室（開店予定を含む）にとどまっている。人口1000万人を超える京畿道内のホテル数も88カ所（612室）に過ぎない。

### 《韓国に訪問する外国人観光客の数》

（単位：万名、資料=韓国文化体育観光部）

2002年	2005年	2009年	2011年	2012年
535	602	782	979	1100(推定)

このような実情により、ソウル市内の弘益（ホンイク）大学、明洞（ミョンドン）、仁寺洞（インサドン）等の外国人観光客の訪問者数が多い地域には一般家庭を改造したゲストハウスが登場しており、各地自体は低廉なモーテルを外国人観光客用の宿泊施設として改造するため努力している。しかし、サービスや安全の面で100%満足できることは期待できない。これにより、高級ホテルに比べて価格は低く、しかも満足できるサービスを保障するビジネスホテルが代案として浮上している。

### ■日本式のビジネスホテル

外国人観光客の訪問数が多い明洞の中でも中心部に位置し観光客を集めているショッピングモール「明洞Migliore」は、一般オフィスのビルまでビジネスホテルへ変身させる準備をしている。韓国ビジネスホテルチェーンであるホテルスカイパークは明洞周辺に3カ所ある。また、1960年代にホテル事業を営んだが、その後オフィス賃貸事業に転換したシンシンホテルは今年初めに工事を完了し約20年ぶりに再度ホテル事業を展開する予定である。ロッテホテルも明洞の駐車タワーを27室規模のロッテシティホテルとし

て運営する計画であり、高級ホテルのみ営んできたホテルSHILLAも江南（カンナム）等にビジネスホテルの設立を推進している。これ以外にも、ソウル市には駅周辺を中心に40カ所で約6300室規模のビジネスホテルが事業施行認可を受け、建設されている。

早く韓国市場に進出した日本ホテルチェーンも支店を増やし事業を加速している。2008年4月釜山（プサン）に1号店をオープンした東横インは、現在、釜山に4カ所、大田に1カ所、ソウルに1カ所ビジネスホテルを運営しており、ソウルに3カ所新しくオープンする予定である。特に、東横インは一泊の朝食代込み宿泊費（シングルルーム基準）が約6～7万ウォンと経済的な旅行をする外国人観光客のみならず国内出張者からも大人気である。これ以外にも、フランスのIbis、アメリカのBest Westernも客室利用率90%を超えている。



ソウル東大門の東横イン

### ソウル市内の2015年宿泊需要予測と供給現況

（資料=毎日経済新聞&ソウル市）

2015年宿泊の需要	宿泊施設現況（開場予定を含む）
7万3231室	2万6507室

### ■収益率の予測値は高いが、需要の不確実性を勘案しなければならない。

中上級の宿泊施設に属するビジネスホテルの一泊の宿泊費は7～15万ウォンとされる。ホテル宿泊客の大部分が外国人である点を勘案して、明洞、仁寺洞、弘益大学等が有利な地域として考えられている。

ビジネスホテルへの投資方法は2つある。土地の取得後にホテルを新築するか、モーテルや一般建物を賃借した後にビジネスホテルに改造する方法である。新築時には宿泊業の許可を受けるため該当土地が商業地域に属するかを調べなければならない。ホテル運営が円滑な場合、予測収益率は約8～10%で多少高い。しかし、リスクも多い。韓流ブームにより急増した外国人観光客の数が持続的に増加するとは保障できない。また、一度に多くのビジネスホテルが開店する場合、過剰競争を避けられない状況に直面する可能性もあるのだ。

【デロイト安進会計法人 金明奎（キム・ミンギョ）】

# 「食品輸出商談会in山陰」のご案内

## 3月11日(月)松江市で開催!

ジェトロと公益財団法人鳥取県産業振興機構では、日本産農林水産物・食品の海外への輸出促進に向けた活動の一環として、海外の主要バイヤーを招き、松江で商談会を実施します。近年、世界的な日本食ブームや、食の安全に対する関心の高まりを背景に、海外のバイヤーから、高品質な日本産の農林水産物・食品へ熱い視線が注がれています。その海外バイヤーとの商談を、自社で海外の見本市に出展するのに比べはるかに安いコストで行える貴重な機会ですので、是非多くの方のご参加をお待ちしています。

■日時：2013年3月11日（月） 10時00分～17時00分

■場所：松江東急イン 2階 カメリア（商談会）、アイビー（商品展示ブース）（松江市朝日町590）

■招へいバイヤー：カナダ、ドイツ、ロシア、アラブ首長国連邦（UAE）、フィリピン、台湾、香港、シンガポールの日本食に関心のある企業8社

### ■商談会への参加条件：

1. 中小企業基本法に定める中小企業、農業協同組合等であること
2. 日本国内で生産・製造された農林水産物、食料、飲料であること
3. ジェトロの事前講習会等に参加し、商談会に必要な準備（英文資料等）いただけること
4. ジェトロが成果把握のために実施するアンケート、事後ヒアリング等にご協力いただけること

■主催・共催：ジェトロ松江、ジェトロ鳥取、公益財団法人鳥取県産業振興機構

■後援：島根県、鳥取県（予定）

■参加費：無料

■定員：30社程度

### ■お申し込み方法：

ジェトロHPをご覧ください。

<http://www.jetro.go.jp/jetro/japan/tottori/events/20121227199-event>

■お申し込み締め切り：2013年1月24日（木）

### ■申込みにあたっての注意事項：

- ・申し込みいただいた情報（企業情報、商品情報および商談希望先）により、主催者側でアレンジを行います。
- ・企業情報と商品情報は必要に応じて翻訳してバイヤーに提示します。
- ・御社として価格交渉・意思決定が出来る方のご参加をお願いします。
- ・商談会当日には商品規格書・価格表等（英語版がない場合には英文概要）、試飲・食用サンプル・備品・資材等を商談会場にご持参願います。
- ・現地の輸入規制等により、商品によっては日本からの輸出が困難な場合があります。  
▽各国の輸入規制についてはジェトロHPよりご確認ください。
- 【ジェトロHP】<http://www.jetro.go.jp/world/qa/>
- ・輸出が困難と判断される場合には、当該バイヤーとの商談はご遠慮いただきます。
- ・次の選考基準ならびに、商談会へ出品される商品全体の構成バランス等を考慮して商談相手を選定することがあります。【選定基準：①バイヤーが商談を希望する企業・商品であること②応募者の海外販売・輸出体制③商品の日本産原材料の含有割合】
- ・食品関連法規に抵触している場合や、申込書に虚偽の記載があった場合、商談参加者としてふさわしくない場合はご参加をお断りすることもございます。

### ■問合せ先：

ジェトロ松江（担当：石田・トオネン）

TEL：0852-27-3121

E-mail：mat@jetro.go.jp



# ロシアセミナーのご案内

**1月21日(月)米子市、1月29日(火)鳥取市で開催**

## ■ロシア極東ビジネスセミナー

2012年のロシアは、5月のプーチン政権発足、8月のWTOへの正式加盟、そして9月のAPEC開催など世界から注目を集める多くの出来事がありました。不透明な点が多いとされてきた同国との商取引はWTO加盟によってどのように変化していくのかなど、今後のロシアの動向をウラジオストク日本センターの大石所長さんをお招きし解説いただきます。ロシアの最新情報を知っていただく絶好の機会となりますので、皆様、是非御参加ください。

日 時：平成25年1月21日(月) 15時～16時30分

場 所：米子全日空ホテル2F「飛鳥(中)の間」(米子市久米町53-2)

演 題：「環日本海経済圏の中での日露経済交流拡大」

講 師：ウラジオストク日本センター 所長 大石荘平氏

主 催：環日本海経済活動促進協議会、境港貿易振興会、鳥取県産業振興機構とっとり国際ビジネスセンター  
問合せ、申込み：環日本海経済活動促進協議会事務局(担当：宮永、坂田) 電話0859-47-3905

## ■ロシアビジネスセミナー

鳥取県では2009年6月末の環日本海定期貨客船就航に併せ、寄港地であるウラジオストク市及び境港市に鳥取県ロシアビジネスサポートセンターを設置し、ロシアとの経済交流の促進に取り組んでいます。この度開催するセミナーでは、同センターの活動状況と併せ、実際にロシアとの経済交流に取り組む事例の紹介を行います。これからロシアへの展開、海外への展開を考えられる方々にとっても非常に参考になる部分が多いと思います。多くの皆様の御参加をお待ちしております。

日 時：平成25年1月29日(火) 13時～15時

場 所：とりぎん文化会館2F第2会議室(鳥取市尚徳町101-5)

内 容：「ロシア・ビジネス事始め -北九州企業のウラル進出の事例から-」

社団法人ロシアNIS貿易会(ROTOBO)／部長 岡田邦夫 氏

「ロシアビジネスにおけるサポートセンターの活用について」

センコン物流株式会社／社長室次長兼国際営業部次長 西條信彦 氏

「ロシア展開への取り組み事例紹介」

鳥取ブランド展・松江ブランド展参加企業等

主 催：鳥取県産業振興機構、鳥取県

問合せ、申込み：鳥取県産業振興機構とっとり国際ビジネスセンター(担当：岩田) 電話0859-30-3161

## 編集後記

とっとり国際ビジネスセンターの支援メニューの一つに、「とっとり県内企業海外チャレンジ支援事業補助金」があります。この補助金は、県内企業の皆様の海外展開のきっかけを支援するもので、海外見本市や商談会への出展、サンプル輸入、輸出入を目的とした市場調査等を対象としています。

今年度は、上半期に応募が殺到したため一旦募集を中止しておりましたが、世界経済の動向の変化や輸出規制の緩和により活発になってきた県内企業の海外展開を支援するため、予算全体を調整し、12月から再募集をしています。補助金額は上限100万円、補助率2分の1、随時募集しています。海外への販路開拓をご検討の方は、是非一度、当センターへご相談ください。なお、詳細はホームページ(<http://www.tottori-kaigai.com/>)に記載しています。【Z】

**本誌「とっとり・グローバルウォッチ」は、皆様から内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしておりますのでお気軽にお寄せください。**

お問い合わせ：公益財団法人鳥取県産業振興機構 とっとり国際ビジネスセンター

《本 部》境港市竹内団地255-3

TEL：0859-30-3161 FAX：0859-30-3162 E-mail：kaigai@toriton.or.jp

《東部窓口》鳥取市若葉台南7-5-1

TEL：0857-52-6757 FAX：0857-52-6782 E-mail：kaigai@toriton.or.jp